

高島の古代寺院

奈良県明日香村に所在する「飛鳥寺」は、日本最古の本格的寺院として6世紀末から7世紀初めにかけて造営されました。滋賀県には7世紀代の古代寺院跡が65か所前後存在し、この数は大阪府や奈良県について多く、当該期の地域史を考える上で見過ごせない存在になっています。

市内では、扇状に広がる安曇川平野のかなめの丘陵上に位置する新旭町熊野本の大宝寺廃寺から7世紀中頃の瓦が出土しています。



大供廃寺から出土した軒丸瓦

この時期の瓦は、県内では大津市堅田の衣川廃寺や唐崎の穴太廃寺などでしか見つかっていないことから、建立した高島の豪族の勢力の大きさを示しています。

古代北陸道と若狭への分岐点を見下ろす丘陵上に位置する今津町大供・今津にまたがる大供廃寺は、7世紀後半に入った段階の瓦（写真）が出土しています。この時期は天智朝の大津宮の時代で、同系統の瓦が先の衣川廃寺や大津宮周辺の各寺院、草津や栗東・野洲など湖南地域に多くみられ、天智朝のシンボリックな意味を持ち、地域に波及したと考えられています。また、瓦の製作技法などから、渡来人の技術がみられ、これらを支配した中央権力のもとでその重要性に見合ったモニュメントとして建立されたと考えられます。

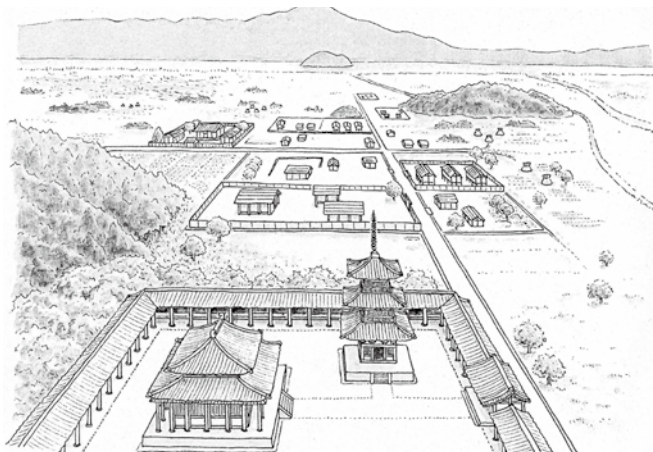
箱館山南東裾野の緩やかな丘陵上に位置する今津町日置前の日置前廃寺は、7世紀末から8世紀初め頃の瓦が出土しています。発掘

調査で金堂とみられる石積み基壇と礎石建物が検出され、市内では唯一の寺院遺構が確認された遺跡です。また、10世紀代に火災に遭い焼失したとみられ、火災によって焼けてしまった塑像（土製の佛像）の破片や、全国で2例目となる彩色面の描かれた堂内の土壁が発見され、堂内の情景が具体的に復元が可能な貴重な遺跡として注目されました。また、寺院の東に隣接して7世紀末から9世紀末の役所跡と考えられる日置前遺跡があり、8世紀の前半から中頃には高島郡衙（現在の高島市役所のよつなもの）の可能性も含めた、都市的な広がりや機能を持った大規模な官衙（役所）と考えられます。

建物や柵などの主要遺構の主軸方向が日置前廃寺の遺構と一致することから役所に付属する寺院として同時に整備された可能性がります。

3つの古代寺院は創建事情や創建時期に差があるものの、若狭・越前の北陸地方と都を結ぶ北陸道の存在を強く意識して造営されたことに違いはないものと考えられます。

問文化財課 ☎(32) 4467



日置前廃寺の復元イメージ図

編集感

寒くなったなあと思ったら、今年ももう残り1か月です。この1年はいろいろなことがあり特に早く感じます。▼年末は慌ただしく事件事故が多くなるといわれます。今回の特集では、よく起こっている悪質商法の事例を紹介しています。実際に市内で被害も起こっていますので、他人事と思わずに皆さん一人ひとりが注意しましょう。▼今年の12月には、「全国発酵食品サミット」や「市民劇」といった大きなイベントもあります。ぜひお越しく下さい。(S)

広報たかしま

平成25年

12

月号 No.167

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒597-0001 滋賀県高島市新旭町北畑ののり地

☎0740(25) 8000(代)
http://www.city.takashima.shiga.jp
t:info@city.takashima.shiga.jp

